

三尖弁逆流・肺高血圧症(PH)とは

僧帽弁閉鎖不全症や先天性の心疾患、フィラリア症、慢性の呼吸器疾患などが原因で心臓の右側に負担がかかることで肺動脈の血圧が一定以上になる疾患です。

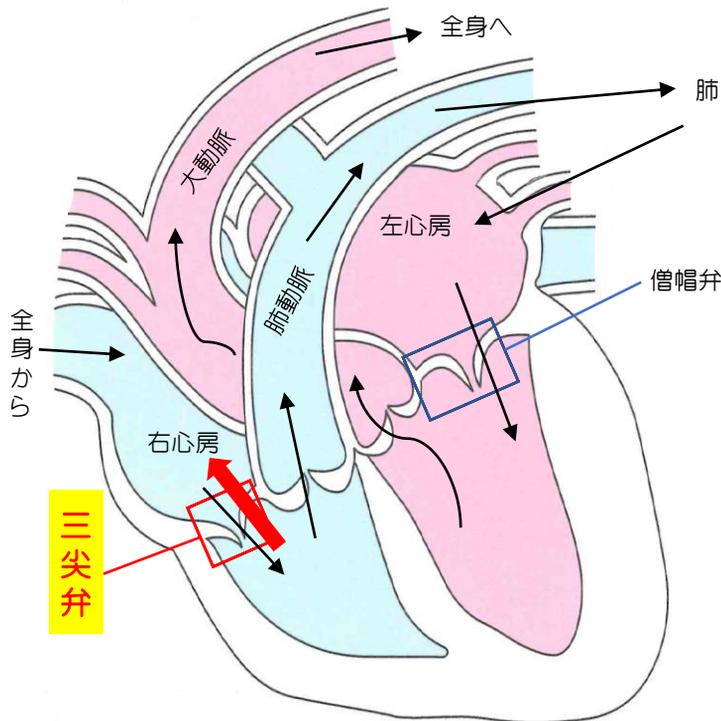
肺高血圧症の多くで、右心室から右心房への血液逆流が起こります。これを三尖弁閉鎖不全症や三尖弁逆流と呼びます。

三尖弁逆流がある場合には逆流速度から計算される収縮期肺動脈圧によって肺高血圧症の程度を推定することができます。

《症状》

- 腹水
- 胸水
- むくみ
- 咳
- 疲れやすい
- 失神
- 肺水腫

失神は一時的な酸欠状態によって起こり、1分程度で回復することが多いです。可能であれば動画を撮影し、獣医師に相談しましょう。



《治療》

◆ 内服薬

原因疾患にもよりますが、強心剤や血管拡張剤、利尿剤、肺血管拡張剤(シルデナフィル)などで治療します。

◆ 食事

高血圧の悪化要因となるため、塩分の高い食事は避けなければなりません。シニア用のフードや心臓、腎臓病用の療法食は低塩分の物が多いです。

◆ その他

胸水が溜まってしまう場合は、貯留に伴って呼吸が苦しくなります。腹水が溜まってしまう場合は、腹膨満や体重増加、食欲低下が見られます。溜まるスピードは子によって様々ですが、定期的に針を刺して抜去する必要があります。

《緊急を要する状態》

全身的に「むくみ」が起きやすい状態です。肺がむくんでしまうとスポンジ状の肺が水を含んだ状態になります。この状態を【肺水腫】と言い、湿った咳、呼吸困難、チアノーゼを起し大変危険な状態になります。日ごろから睡眠時の呼吸回数を数えて記録しておくことで早期発見につながります。

大人しく眠っている時に、「吸って吐いて」を1回とカウントしてみましょう。(15秒の測定でもOKです)

正常では1分間に30回未満ですが、通常時より10回以上多かったり、40回/分以上の呼吸である場合は肺水腫を起している可能性がありますのですぐにご連絡ください。